

科目	心理学基礎実験実習Ⅰ（心A）	単位数	1
担当教員	多田 美香里、宇恵 弘、佐伯 恵里奈、林 美恵子		
履修対象	心理科学科2年春学期		
目的	心理学の基礎分野の題材をもとに簡単な実験を実施し、科学における実験の意義と方法についての理解を深めます。		
達成目標	「知識・技能」 (1)実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 (2)実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 (3)実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 (1)実験を通して実証的な考え方をできるようになる。 (2)研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 (1)実験結果を様々な視点から考察することができる。		
授業計画			
1	ガイダンスとレポート作成練習：受講の注意点の確認、レポートの書き方の概説、レポート作成練習用課題の実施		
2	触2点閾の測定(1)：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
3	触2点閾の測定(2)：実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
4	触2点閾の測定(3)：データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
5	系列位置効果(1)：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
6	系列位置効果(2)：実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
7	系列位置効果(3)：データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	知覚運動学習(1)：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
9	知覚運動学習(2)：実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
10	知覚運動学習(3)：データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
11	データ解析演習(1)：実験のデータを用いて解析手法について説明します。		
12	データ解析演習(2)：心理統計のソフトウェアを用いて実際に解析します。		
13	データ解析演習(3)：解析したデータの解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	復習課題(1)：実験に関する復習課題を実施します。		
15	復習課題(2)：添削したレポートを例に、改善点について確認します。		
授業形態／具体的な内容	4つのテーマを3週ずつ順に行う予定です。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会(1985)実験とテスト＝心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会(2015)認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書(レポート)が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。4つのレポートの平均点を80%、受講態度(実験への貢献度、積極性等)を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくこと。		
備考	レポート(実験の報告書)はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。また、提出されたレポートはテーマ担当教員が採点・添削を行います。レポートは期限までに添削したレポートは返却しますので、各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは0点になります。	No.	PY622001